



道山 壮山

みちやま そうざん

明治期の俳諧の祖

一八三四—一九〇〇

須賀川町生まれ。通称は三次郎。父、茂八 母、のいの三男。兄、茂三が早くに亡くなったので、家督を継いで商業に従事し、家業のかたわら種々の名誉職などを務めた町の有力者でした。幼いころから習字や漢籍などを学び、のち俳句の道に入ったといわれます。

海棠の眠りをさます桜かな 壮山

今から334年前、芭蕉は門人の河合曾良を伴い、『おくのほそ道』の旅に出立し、須賀川ではかねてからの親交のあった相楽等躬との句作の時間を共に、八日間滞在しています。

本展は、芭蕉ゆかりの資料と等躬の系譜を受け継ぎ、後世に発展させた俳人たちにに関する資料をⅢ期にわたり紹介しています。



風流のはじめ館

テーマ展 「須賀川の俳人の足跡」

開催中です。

2023
第17号
7月号

<https://s-furyu.jp/>

Ⅱ期



須賀川の **三太郎**
7/15 | 8/20

右から、
桔槔創立同人
道山草太郎、
矢部楯郎、柳沼破籠子



新庄牛歩人 作

桔槔(はねつるべ)

長い横木の一端に重石をとりつけて、その重みで釣瓶(つるべ)をはねあげて水をくみ上げる道具。

はねつるべが新しい水を汲みあげるように、俳句はいつも新しくありたい。

名は全国に
知れ渡る。

本宅の近くに
「可伸庵」
を設け、
多くの風流人を
もてなした。

俳号「栗の本壮山」は
京都二条家より賜った
榮譽のある称号である。



壮山は東北地方に杖を曳く俳人たちがその門を叩かないことはないといわれたほどの俳人だった。

亀の絵や句を多く残した。

万年生きるという「亀」は長寿の象徴であり、縁起のよいものとして大切にされてきた。

まだ無名で若輩のまよおかしき正岡子規をみて、軽くあしらったとある。

Ⅲ期

桔槔

101年目の **桔槔吟社**
8/23 | 10/2

桔槔
きつこう



第二回「すかがわ大人塾」開催しました。

はじめての俳句教室

7/13(木)
7/20(木)



今年も開催した「俳句教室」。今回も定員を超える16名の応募がありました。空をながめ、風を感じ、草木を愛で、それぞれの17文字の言葉で表現しました。



俳句の約束ごと、季語などを学んだあと、外庭で「夏空・梅雨の空」を句材に作句。

テーマ展「和歌も短歌もある」

ギャラリートーク 終了しました。

5/27(土)

服部躬治の講演は
県内初!



福島市在住のフリーライター菅野俊之さんを講師に服部躬治の生涯をたどるギャラリートークを開催し、約30人が参加しました。

4年ぶりに開催され、

きつり天王祭 大賑わいでした。

7/14(金)



きゅうりを2本奉納し、お護符がわりに1本をもち帰り食べると1年間の病気にかからないと伝えられています。

待ちわびし子に来るきゅうり天王祭 森川光郎 齋藤耕心

(須賀川桔梗季語紀行より)

翠ヶ丘公園の 万葉歌碑

紫陽花 あじさい

あじさいの八重咲くごとく八つ代にを
いませ我が背子見つつ偲はむ

橘 諸兄



紫陽花が八重に咲くように、あなたさまも末永くお元気であられるようにこの花を見ながらお祈り申し上げます

翠ヶ丘公園には野の草や花木が詠まれた60首の万葉歌碑があります。万葉集に詠みこまれた植物を紹介しています。

山ぢさ やまぢさ

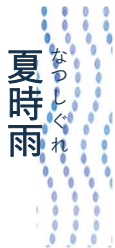
山ぢさの白露重みうちふれて
心深く我恋止らず

柿本人麿



山ぢさ(エゴノキ)が露に濡れて重たく垂れさがっているよ。しょんぼり、うちしおれて、わたしはただひたすら恋続けています。

言の葉



夏時雨

「時雨」は冬の季語です。夏に静かに降ったり止んだり時雨のような降り方をする雨のこと。

振花

緑の棒にピンクのひもが巻きつけられたよう。左巻き、右巻きと両方あります。夏の季語です。



朝茶

朝茶は福が増す

朝いただくお茶は、その日一日のさまざまな災いから守ってくれ、福も増すと云われます。暑い夏の早朝に催される茶事。

こども和文塾

来月の教室

8/2(水)
3(木)

「夏休みこども俳句教室」

申込は〆切
ました。

俳句募集

俳句ポスト

募集期間 通年
選句会 年2回

投句募集

第1回締切
8/27(日)



文化振興課
公式 Instagram
開設しました!